

学校教育目標・目指す児童の姿	今年度の重点目標	成果と課題	改善策・向上策	評価
進んで学び、 豊かな心をもって、 たくましく生きる子 かしこく・やさしく・たくましく	○かしこく 《学力向上》	児童アンケートの結果から、9割近い児童が授業は分かりやすいと感じている。保護者アンケートでの「わかりやすい授業をしているのAB評価も9割を超えた。夏休み中に実施した学力分析と今後の取り組み、各種研修をもとに、「わかる授業」の工夫、「ねらい、めりはり、みとどけ」の3観点を生かした授業の展開を各学級で取り組んできた。しかしながら、児童の主體的な学び、表現力の向上において課題がある。	各種研修をもとに、「わかる授業」の工夫、「ねらい、めりはり、みとどけ」の3観点を生かした授業作りに取り組んでいく。特に児童の意識に沿った課題や発問の工夫をしていき学習への意欲を高めていきたい。このことが長年課題となっている表現力の向上にもつながると考える。また、基本的な学習習慣を整え、友だちの前で遠慮なく自分の考えを言えるような学級集団を目指していく。	B
	○やさしく 《人間関係力向上》	全教育活動の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んできた。特に地域との交流や異学年との交流、地域ボランティア活動を行ったことで、幅広い人間関係をつくることにつながっていった。児童アンケートの結果から、9割近い児童が友だちにやさしくできると感じている。一方で、できていないと感じている児童が1割強いるので、その子どもたちに寄り添っていく必要がある。	引き続き全教育活動の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んでいく。悲しい思いや自分を出し切っていない児童に寄り添った支援をし、みんなが楽しいと思える学校を目指したい。そのために、なかよしアンケートやQ U検査を有効に活用していく。また、道徳・人権教育・生徒指導などの時間で自己肯定感・自己有用感を高めるような支援を考えていきたい。	B
	○たくましく 《体力・精神力向上》	毎朝継続して取り組む身体みがき、月1回の身体みがき集会、児童会主催の「なかよしの日」での外遊び活動など全校で取り組んできた。1学期には運動会、2学期には西小アドベンチャー、3学期には大縄チャレンジを行い、各学級学年でめあてをもって取り組むことができた。休み時間等校庭や体育館で遊ぶ児童が姿が見られるが一方で体を動かして遊ぶよさを感じていない児童もいる。	運動を進んでする児童と、ほとんどしない児童の差があるので、誰もが楽しめ、気軽にできる運動を、体育の授業や全校運動で紹介していきたい。また、体力向上につながる継続的な取り組み(年間を通じての大なわとびなど)も検討していきたい。さらに、来年度は新体力テストを実施するので、結果を指導の参考にしていきたい。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策	評価
教育課程		◇運動(身体みがき)、ドリル(頭みがき)、表現(声みがき)、人権教育(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ、実態に応じた内容を全校で実施し、伸びを評価できたか。	週3回の「みがきタイム」の時間を継続して取り組むことができた。児童アンケートの結果から、それぞれ8割の児童が、みがき活動によって成果を感じている。さらに、児童が活動を通じ伸びてきている点をふり返る場を充実していきたい。心みがきは全教育活動の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んできた。	毎日の4つのみがき活動が、学力の定着や活用、表現力の向上につながっているかを評価し、確実に力がつくような内容の工夫をさらに検討していきたい。さらに、振り返りや自己評価をする場を、位置付けていきたい。また、引き続き家庭での体みがき運動への取り組みの呼びかけを行っていきたい。	B
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか。	児童アンケート「授業はわかりやすい」では、AB評価が9割程であった。重点研究や公開授業を通じて授業改善に取り組んできた。また特別支援教育についての職員研修を行い、授業改善や学習環境などに生かした。また、必要に応じて支	引き続き授業のユニバーサルデザインを意識した教室環境や板書の工夫、人間指導を年度当初に全職員で確認し、実施していく。さらに、研修を深めて、子どもたちの意識に沿いながらどの子どもも安心して授業や活動に取り組めるよ	B

教 育 活 動	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか。	援会議を開き、個に応じた支援・指導をきめ細かく行った。	うな視覚支援や掲示方法、発問や板書などの工夫を心がけていきたい。	
			基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか。	児童アンケート「頭みがきを続け、計算力がついた」では、AB評価が80%であった。「進んで発言できる」は61%、「自分から調べたり、聞いたり、まとめたりできる」は66%であった。児童の主体的な学び、表現力の向上について課題がある。	引き続き「頭みがき」に取り組み基礎学力の向上を目指す。さらに、どの児童も安心して自分の考えが言える学級の雰囲気作りを行う。その上で児童が主体的に取り込む授業を目指したい。そのために児童の意識に沿った学習問題が設定できるよう教材研究を行う。	C
			繰り返しの「声みがき」を中心としながら、自己表現力の向上を図れたか。	児童アンケート「声みがきに取り組み、楽しく音読や歌を歌うことができた」では、AB評価が約8割である。児童は、毎朝の声みがきや音楽会前の歌みがきで声を出す楽しさを感じている。一方で自分の考えを発表することが苦手だと感じている児童も多く、声みがきの成果が十分結びついていない。	毎朝、音読や歌を各学級で取り組んでいるので、さらに興味を持って、楽しくできるような題材選びや形態の工夫を考えていきたい。また、この活動を授業や行事に活かし、達成感が得られるよう自己表現力の向上へとつなげていきたい。	B
			毎日の読書の積み重ねを通して本に親しむ子どもの姿が見られたか。	毎週月曜日の朝の15分間行われている読み聞かせボランティア「ぶんぶんぶん」による各学級での読み聞かせ、読書週間、ペア読書などの実施により、本に親しむ姿が見られた。本年度は一人平均104冊の貸し出しがあった。またバリューブックスさんのご協力もあり、学級文庫が充実した。	本に親しんでいる子どもたちは多いので、さらに様々なジャンルの本に親しんでいけるように、図書館司書や担任からいろいろな本の紹介をしたり学級での読み聞かせの機会を増やしたりしていきたい。	B
			家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣が身についたか。	児童アンケート「家庭学習の目安(学年×10分)に取り組む」では、AB評価が79%、「家庭での学習に進んで取り組んでいる」では、AB評価が84%であった。家庭学習の習慣が身に付いている児童が多い。家庭学習ノート「紡ぐ」を使用した。昨年度に比べ評価に大きな差がなかったが、自主学習が充実してきている児童もいる。保護者と連携してより有効な活用の仕方を考えていきたい。	家庭学習の中身について、さらに質や量など、学年に応じた内容を工夫していく必要がある。また、学年間や学級間で差が出ないように、揃えるところは揃えて取り組んでいきたい。来年度も市教委で作成した家庭学習ノート「紡ぐ」を全校で使用する。これを通して家庭との連携を深め、より充実した家庭学習を行っていきたい。	B
	生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子どもどうしの繋がりを深めることができたか。	児童アンケート「大きな声で、笑顔あるあいさつができる」では、本年度のAB評価が70%であった。「ハイタッチあいさつ」や児童会の「あいさつ隊」が全校に浸透しているが、ここ数年児童の評価はやや下がっている。「西小アドベンチャー」、「児童会西小オリンピック」は、異学年交流を深める機会となった。	「ハイタッチあいさつ」や「あいさつ隊」は、西小の特色の一つとして引き続き行う。さらに地域や保護者にもあいさつの輪を広げていきたい。児童の中には挨拶ができないと感じている子もいることも考えながら日常の中で挨拶の輪が広がりそのよさを感じられるような取り組みをしていく。	B
			生活科や総合的な学習の時間を通して地域の理解や繋がりを深められたか。	保育園・幼稚園との交流、福祉施設との交流、米づくり、地域の歴史や伝統的な行事、地域で働く人々の学習を通して、地域とのかかわりやつながりの場を設けてきた。児童は地域の特徴やよさにふれることができた。	来年度も地域との連携を大切にして授業等で地域素材を積極的に扱っていく。その際、課題意識をもって地域の人・こと・ものから学ぶことができるような学習を展開していきたい。	B
		◇心と身体みがき	毎朝の「身体みがき運動」を中心に身体	児童アンケート「身体みがきの運動に取り組	朝の会や体育の授業での準備体操等で	

		の健康の維持や向上を図れたか。	み、進んで体を動かす」では、AB評価が82%であった。月1回全校で集まって行う「身体みがき集会」も、継続して取り組む意識づけとなっていた。長期休暇の際には体みがきチェック表を配布し家庭での継続的な取り組みを呼びかけた。	身体みがき運動に継続的に取り組んでいく。家庭でも継続して取り組んでいられるようさらに発信していきたい。また、児童が身体みがきの意義や効果を考え、自分から取り組む良さや喜びをもてるようにしたい。	B	
		無言清掃や道徳教育を通して、頑張る気持ちや人権感覚を高められたか。	児童アンケート「清掃はしゃべらず、一生懸命取り組む」では、AB評価が全校では78%であった。2学期から児童会での呼びかけや各学年ごと無言清掃への取り組みを全校で行った。さらに、清掃でのよい姿を掲示等で紹介した。また、「思いやりの心をもって、友達にやさしくできた」では、AB評価が86%であり、多くの児童が友だちにやさしくできたと感じている。	清掃については、児童会の活動などを通し、全校で無言清掃に取り組んでいく。その際、各学年の取り組みのよさを全職員で学び生かしていきたい。さらに児童が達成感を感じることでできるようなふり返りの場を工夫していきたい。人権感覚については、日常の活動の中で人権感覚を高めることを意識し、個々の子どもたちの様子を丁寧に見て指導・支援をしていきたい。	B	
学校運営	地域との連携	◇地域の素材・人材を活用した教育活動	地域の素材・人材と関わりを持った学習活動が展開できたか。	児童アンケート「西小のまわりの地域のことや、人物の学習をしている」では、AB評価が67%であった。多くの学年学級で地域の素材を扱ってきている。実際に地域に出たり、地域のことを学んだりしたことで、地域のよさを感じた子がいる。一方で3割の児童にとっては扱った地域素材についてあまり印象に残っていないことがうかがえる。	今後も地域素材を扱った学習の機会を多くしていきたい。また、内容の充実も図っていく必要がある。そのために地域素材の発掘に加え、子どもたちが地域のよさを感じられるように地域素材との出合わせ方など学習展開の工夫をしていきたい。また、コミュニティースクールなども活用し地域素材や人材を発掘していきたい。	B
		◇信州型コミュニティースクールを視野に入れた学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し、活用するとともに、広く広報できたか。	学校支援ボランティアの方に、様々な場で関わっていただいた。見守り隊、読み聞かせ、放課後学習室、クラブ活動、登山、米作り、園芸、清掃、生活科講師、スケート教室等様々な活動で、地域の方、大学生、専門的な知識や技能を持った方々と積極的な関わりができた。また信州型コミュニティースクール運営委員会を2回行えた。	学校支援ボランティア、信州型コミュニティースクールに関わる情報発信を学校だより・学年だより・学級通信・ホームページ等により一層行っていく。さらに、各ボランティアの横のつながりも考えていきたい。また、今年度の活動の成果と課題を、来年度に活かせるよう引き継いでいく。	B
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修、地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研修会や生徒指導研修会、非違行為防止研修会を継続的に行い、職員の意識を高めることができたか。	教職員による一人一公開授業の実施、学力向上のための分析と研修会、算数・外国語・道徳・人権教育を中心とした授業研究、特別支援教育の研修会、非違行為防止研修会などを外部講師を招聘しながら実施し、日々の授業に生かしたり、職員の意識を高めたりしてきた。	重点目標に関わる内容について、年度当初に職員研修として位置づけ、職員の指導力向上を図りたい。さらに同僚性を生かした研修を通じ、日々の授業や学級経営に生かせるようにしたい。本年度同様に、非違行為防止研修会は必ず職員会議の時に行うようにし、根絶を誓うとともに地域からの信頼を厚くしていく。	B

評価：Aは「十分に達成された」 Bは「基本的に達成された」 Cは「達成されたが課題は残る」 Dは「全体的に達成されていない」を表している。

：7月に「第1回児童アンケート」12月に「教職員アンケート」「第2回児童アンケート」「保護者アンケート」を実施した。

：「音楽会」「運動会」については、保護者へアンケート形式の評価を実施した。

：児童アンケートの「AB評価」は、「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせた評価